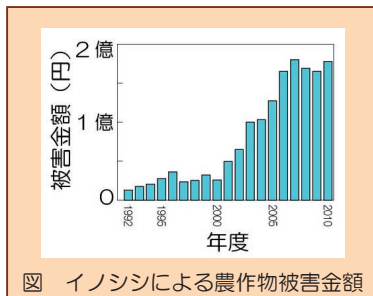


増加する被害金額

千葉県内のイノシシによる農林作物被害は約1億8千万円にもものぼり、獣類の中でもっとも害を及ぼしています(2010年度、農村環境整備課調べ)。



■ 被害にあう作物 ■

イノシシに食害される品目は、水稲がもっとも多く、タケノコやイモ類、豆類などがあります。これらは、現在の主な分布地域である県南部の主要生産物でもあり、被害が深刻になっています。しかし、今後、さらに付加価値が高い農作物を生産している県北部へ分布拡大すると、急速に被害が拡大することが予測され、早期の対策が不可欠です。



写真 イノシシに踏み倒された水田

イノシシ被害にあっている農作物

水稲、タケノコ、サツマイモ、ジャガイモ
大豆、落花生、粟・・・



コラム 被害が拡大した時の想定される被害金額

参考文献4によると、もしも現状のままイノシシの分布拡大を阻止することができずに、県内全域に分布拡大したと想定した場合の農作物被害金額は、約35億(田:3億円、畑:32億円)とされています。この数字は林縁から一定の距離に作付けされている農産物に、ある割合でイノシシの被害が発生すると仮定して算出されました。

もちろん、この数値は、今後の対策や作付け状況などによって大きく変化しますが、早期対策の重要性を認識するためのひとつの目安になります。

計算は、農林業センサス2005(集落別の品目、作付け面積)、卸売市場価格、甚大な被害発生地での発生割合、被害暴露面積などから試算。

(参考文献4)

痕跡の見分け方

イノシシ対策の鉄則である「早期発見」のためには、イノシシの痕跡を識別する必要があります。代表的な痕跡について紹介しますので、実際に探索してみてください。

イノシシの痕跡発見のポイント

「泥だらけの体」と「掘り返し」

移動すると、泥がつきます。乾くと、薄い茶色になります。特に夏に目立ちます。イノシシの気持ちになって、地面近くを探索してみましょ。土の掘り返しも目立ちます。

移動経路（ケモノ道）：イノシシが使う道の草には、葉や茎の表面に泥がつくので、晴れた日には見つけやすいです。



足跡：偶蹄類で、大きな2つの蹄と、その左右後ろに小さな2つの蹄があります。ウリボウ（幼獣）では後ろの2つはつきません。

糞：それぞれの粒が繊維でつながっていることがあります。



イノシシは、林縁の木や竹に、背中で泥のこすりつけを行います。地面から高さ 50 cm 位までの部分に泥がついていたら、イノシシです(写真参照)。



イノシシによる被害は、農作物の食害のほかに、路肩や畦、土手などを掘り返すなどの被害も深刻です。地中のミミズや植物の根っこなどの餌を探すために、強靱な鼻先で土や岩を掘った跡は、見つけやすい痕跡です。



タケノコ(12~6月)や、稲穂に乳汁がたまりはじめる乳熟期(6~7月)のイネを食べると、かみつぶした皮や籾殻だけを吐き出したりします。この吐き出し痕も、イノシシに特徴的です。



第3章 イノシシ被害に強い集落の作り方

イノシシ対策



イノシシなどの獣害が激化している集落では、被害が発生しにくい「強い集落」に作り変えることが必要です。そのためには、地域ぐるみで、左の3つを同時に実施しましょう。どれか一つだけの対策では、効果が弱くなります。

イノシシ対策の鉄則

早期発見、早期対策

被害が激化してからの対策は、費用も手間も膨大に必要で、戦いが長期化します。

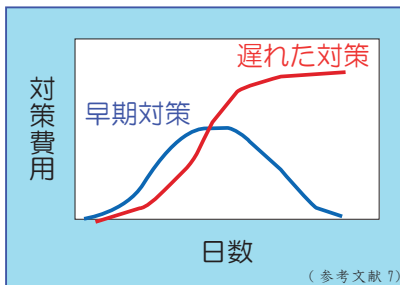


図 対策戦略の比較

対策が遅れると、短期的には費用がかからないが、長期的には費用が膨大になる。